

## 2022年度 読むことのすすめ「メディアとなるもの」リーディングリスト

### \*各項目に含まれる内容

(1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) レイ・ブラッドベリ (2014年) 『華氏451度 [新訳版]』早川書房、ISBN:9784150119553
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 1
- (5) 書物を読む上で、書物とは何かを考えることができるSF作品。書物が世界から消えたらどうなるのでしょうか。そのようなIFを刺激的に描くSF名作です。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 樋口恭介 編 (2021年) 『異常論文』早川書房、ISBN:9784150315009
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 2
- (5) SF (サイエンス・フィクション) は未来や異世界にあるであろうサイエンスや社会システムなどを理論立てた世界観で物語が描かれます。本書は日本のSF作家22名によるSF世界で発表されるであろうサイエンスや社会学に関する架空論文がまとめられています。未来を考えるために未来を仮定する興味深い試みに触れてみましょう。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 日本SF作家クラブ 編 (2021年) 『ポストコロナのSF』早川書房、ISBN:9784150314811
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 2
- (5) 時代が揺れ動く時、SF小説はいち早くそれを察知し未来の可能性を描きます。本書はコロナ禍の混乱の最中に執筆された短編SFのオムニバス小説です。リアルタイムで当事者になる読者にとっては、小説を読む行為以上に社会そのものを考えるきっかけとなりうる今読むべき作品です。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 宮本常一 (1984) 『忘れられた日本人』岩波書店、ISBN:9784003316412
- (2) 学問領域 : 民俗学
- (3) キーワード : 辺境や周縁、生活史
- (4) 難易度 : 1
- (5) 離島研究の第一人者である宮本常一によって、辺境や周縁で生きる人びとの生活史が描かれています。本書は、離島を主な舞台として開催されている瀬戸内国際芸術祭のボランティアサポーターこえび隊のホームページで「必読本」として紹介されています。
- (6) 推薦者 : 小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 吉田隆之 (2021) 『芸術祭と地域づくり [改訂版] : “祭り”の受容から自発・協働による固有資源化へ』水曜社、ISBN:9784880655024
- (2) 学問領域：文化政策学
- (3) キーワード：地域づくり、芸術祭
- (4) 難易度：2
- (5) 芸術祭が、地域コミュニティの形成にどのように影響しているのかを分析しています。7つの芸術祭をもとにして、地域づくりのプロセス、短中期的な地域づくりにつなげられない要因、ユニークな拠点形成の事例、そして芸術祭の評価事例等について論じています。
- (6) 推薦者：小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 宮本結佳 (2018) 『アートと地域づくりの社会学：直島・大島・越後妻有にみる記憶と創造』昭和堂、ISBN:9784812217337
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：地域づくり、持続可能なアートプロジェクト
- (4) 難易度：3
- (5) 地域社会とアート側の双方から提起されたアートプロジェクトに対する疑問を整理し、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「瀬戸内国際芸術祭」の舞台を事例にして、持続可能なアートプロジェクトの展開可能性を示しています。
- (6) 推薦者：小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 柳宗悦 (1985年) 『手仕事の日本』岩波書店、ISBN:9784003316924
- (2) 学問領域：民俗学、哲学
- (3) キーワード：民藝品、日本文化、伝統
- (4) 難易度：1
- (5) 「民藝」の父、柳宗悦が若者のために著した日本を旅する一冊。全国各地の民芸品を訪れ、かわいらしい挿絵とともに紹介が続きます。『民藝の日本』とセットでぜひ。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)

- (1) 志賀直邦 (2016年) 『民藝の歴史』筑摩書房、ISBN:9784480097347
- (2) 学問領域：芸術、社会学
- (3) キーワード：民藝運動、歴史
- (4) 難易度：2
- (5) 「民藝」が生まれた社会と経済に生きた人物たちはどのような関係を築いてきたのか。人物関係史的に「民藝」を読み解く一冊といえます。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)

- (1) 軸原ヨウスケ・中村裕太 (2018年) 『アウト・オブ・民藝』誠光社、1,650円、ISBN:9784991114915
- (2) 学問領域：芸術、社会学
- (3) キーワード：民藝運動、農民芸術
- (4) 難易度：2
- (5) 「民藝的な何か」が幅広く提示されています。民藝とその周縁の芸術を理解するための一助となる一冊です。収録された人物相関図を片手に『民藝の歴史』を読むのも面白いです。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)